



SDGsや社会課題の解決について理解を深めた小樽商科大のイベント

SDGs 関心と行動を

国連開発計画駐日代表 小樽で講演

小樽商科大グローバル戦略推進センター産学官連携推進部門は、イベント「国連開発計画（UNDP）駐日代表と考える小樽からの挑戦」を小樽港観光船ターミナル（港町）の多目的ホールで開いた。

10日に実施し、市内の経済関係者ら約30人が参加した。UNDPのハジアリッチ秀子駐日代表が「SDGs（持続可能な

小樽



小樽堺町

住民

外にいる事ばかり多く、議論や合意形成を進めるのが大変との意見があった。（久慈陽太郎）

興企業）が廃棄されるの皮を活用した「フィシュレザ」を製造し開発途上国に技術を伝えている事例などを紹介「SDGsは遠くにある抽象的なゴールと思っほしくない」と呼びかけた。

（熊谷知喜）

開発目標」と社会起業家「世界と地域をつなぐ挑戦」と題し基調講演。国連のSDGsについて、日本での認知度は高い一方、関心のある人や行動を起こす人の割合は低く、「関心を高め、アクションにつなげることが大事」と強調した。SDGs達成に向けて、スタートアップ（新

条例改正で継続支援

【留寿都】村は来年4月に小学校に入学する村内の子どもに、通学用の軽量かばんを無償贈呈する。蘭越町に続き管内2例目。村は9月の村議会会で入学祝い金贈呈の条例を改正し、子育て支援策として継続的に行うこととした。

贈呈するのは、大手アウトドアメーカーのモンベル（大阪）製の「わんバック」。本体重量は約930gで標準的なランドセルより最大3割ほど軽い。大きさは3種類あり、色はブラウンなど4色ある。価格は1万6千～8千円相当で、ランドセルの半額以下だという。タブレット端末など子どもの荷物は増えている軽量通学かばん

軽量通学かばん 新1年生に 留寿都村

留寿都村の認定子ども園に展示されている軽量通学かばん



（土田修三）